



血液内科のご案内



血液内科は、血液の病気全般にわたって診療を行っていますが、特に白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍、骨髄増殖性疾患、再生不良性貧血、血小板減少性紫斑病などを中心に診断と治療を行います。血液の病気は、内科で扱うさまざまなガンのなかで、治癒がめざせるのが大きな特徴です。抗がん剤以外に、放射線、幹細胞移植（骨髄、末梢血、臍帯血）、さらに、分子標的療法、モノクローナル抗体、プロテアソーム阻害薬、免疫調節薬などの新薬が急速に進歩しており、今まで治すのが難しいと考えられていた病気も、治癒可能になりつつあります。

ここでは、当院血液内科のご案内と、血液の病気のご説明をします。



設備とスタッフ

当院は、地域がん診療連携拠点病院であり、病棟には、個室の無菌室 8 床、最新の幹細胞分離装置 1 台を備えており、24 床の化学療法センターや PET/CT があります。日本血液学会研修施設、臨床腫瘍学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定施設に認定されています。

血液内科のスタッフは、次の通りです。

山本 晃(こう)：1986 年卒、副院長、血液内科部長、化学療法センター長、東京医科歯科大学臨床教授、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会認定血液専門医・指導医・代議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医、医学博士

齊藤 達也：2011 年卒、副部長、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本医師会認定産業医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、医学博士

坂下 千瑞子：1992 年卒、輸血部部長、日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定血液専門医・指導医、日本医師会認定産業医、医学博士

副島 麻衣:2016 年卒、日本内科学会認定内科専門医、日本血液学会認定血液専門医

八木 真梨絵:2020 年卒

大島 健輔:2021 年卒

さらに、がん化学療法看護認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師、化学療法センター、放射線科、歯科口腔外科、緩和ケアチーム、リハビリ、検査技師、ソーシャルワーカーからなるチームが入院・外来患者さんの治療にあたります。



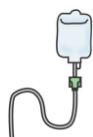
診療体制について

血液の病気は、採血結果の異常やリンパ節の腫れなどで疑われます。診断には、特殊な検査が必要なことが多く、血液内科外来を受診していただければ、必要な検査と治療を進めていきます。

外来診療時間については、ホームページをご覧ください。

当院は原則的に予約制になっているため、あらかじめかかりつけの先生から、予約時間を決めていただくと、待ち時間が少なくなります。初診の際には、検査結果、処方内容などの紹介状やレントゲン写真をお持ちいただくと大変役立ちます。

セカンドオピニオン外来も血液内科では行っています。



治療方針について

さまざまな血液の病気については、国際的に確立した標準的治療法を中心にして、治療を行います。悪性リンパ腫には抗 CD20 抗体、慢性骨髄性白血病には分子標的療法を行っています。さらに悪性リンパ腫の再発や多発性骨髄腫に対しては、自己末梢血幹細胞移植を取り入れた大量化学療法を行うなど、エビデンスに基づいた高度医療をめざします。急性白血病の治療については、Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) の多施設共同プロトコールに加入しています。多発性骨髄腫については、ベルケイドやレブラミドや抗体薬などの新規薬剤による治療も行っています。



診療の基本姿勢

血液疾患の治療には患者さんの協力が必須です。そのため、診療の基本姿勢として、原則として病名を告知し、十分な説明の上に治療法を選択して頂き、インフォームドコンセントを得て治療を行っています。また入院治療ばかりでなく外来治療にも重点をおき、患者さんの Quality of life を最も重視した医療を実践していきます。さらに、当院には緩和ケアチーム、口腔ケア、リハビリもあり、単なる化学療法、移植を行うだけではなく、おいしく食べて歩いて生活できる、緩和ケアなども含めた総合内科、全人的な医療を行うことを目標としています。



血液の病気について

血液内科で扱う病気は、貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板減少性紫斑病、骨髄異形成症候群などで、名前からしてむずかしい病名のものが多いです。そこで、血液の基礎と病気の説明を簡単にしましょう。



赤血球とは

血液には、赤・白・黄の 3 種類があり、赤血球・白血球・血小板といいます。赤血球は体内に酸素を運ぶ役割をしており、少なくなったのが貧血です。貧血がひどくなると、酸素不足の症状で疲れやすくなり、息切れや動悸がします。なお、朝礼で倒れたり立ちくらみを起こすのは失神であり、立ちくらみ＝貧血ではありません。採血して赤血球の色素(ヘモグロビン)が少ないこと＝貧血ですので、貧血の診断には、まずは採血が必要となります。貧血がひどい場合は、輸血により足りない血液を補います。



白血球とは

白血球は、体の抵抗力の元になるものです。正常な白血球が少なくなると、ばい

菌やウイルスが体に入り、熱が出やすくなります。ひどくなると肺炎、下痢、腎盂炎、敗血症などの感染を起こします。そのために抗生剤や白血球を増やす薬を使います。



血小板とは

血小板は、血を止める黄色い血液です。血小板が少なくなると、出血しやすくなります。症状としては、赤や紫のあざが出来やすくなり、鼻血や歯ぐきからの出血がおこります。胃腸や痔から出血すると、赤色やコーヒー色の便が出ます。脳出血や胃腸の出血は、危険なので、血小板が急に減った場合は、血小板輸血で補います。



リンパ節の腫れ

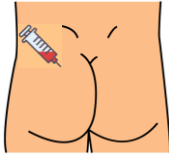
血液の病気では、リンパ節や肝臓、脾臓がはれることがあります。リンパ節は、首、わきの下、足のつけ根、お腹や胸にあります。風邪、虫歯、手足の傷などからばい菌が入ると、周りのリンパ節は腫れて痛くなります。これは、ばい菌が全身に広がるのを食い止めるために、リンパ節が腫れるからです。血液のガンの場合は、リンパ節が腫れても、痛みが無いのが特徴です。

貧血、出血しやすい、痛みが無くリンパ節が腫れるなどの症状がある場合は、医師にかかって診察と採血を受け、必要ならば血液内科で検査を行います。



血液の病気の検査

診察や採血、健康診断で血液の病気が疑われた場合は、血液内科で検査します。検査としては、血液検査、尿、レントゲンのほかに、CT、超音波検査(=エコー)、ガリウムシンチでリンパ節や内臓の腫れがないかを調べます。赤・白・黄の血液はすべて骨髄で作られます。骨髄は全身の骨の中にあるゼリー状の組織です。採血検査などで血液が減った原因がわからない場合は、骨髄検査が必要になります。



骨髄検査について

骨髄検査は、赤・白・黄の血液を作っている骨髄に、血液の種(タネ)の細胞があるか、腫瘍細胞があるか、などを知るために重要です。腰の骨に痛み止めの局所麻酔をしてから行います。



血液のガンについて

血液のいわゆるガン(造血器腫瘍)として代表的なものには、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫があります。

白血病は、異常な白血球が無制限に増えてしまう病気で、急性白血病と慢性白血病があります。急性白血病では、悪い血液が増えて良い血液が急に無くなってしまい、貧血、発熱、出血の症状が出ます。そのため診断と治療は急ぐ必要があります。慢性白血病では悪い血液が増えますが、良い血液は急に減らないため、採血の異常で見つかることが多いです。

悪性リンパ腫は、リンパ節の悪性腫瘍で、痛みが無くリンパ節が腫れます。リンパ節は、胸やお腹などあちこちにあり、胸部や腹部のリンパ節の腫れで見つかることもあります。悪性リンパ腫はリンパ節以外にのど、胃腸、皮膚、脳、精巣、鼻の中などあちこちにも出来ます。出来る場所により、周りの内臓、血管や神経を押しつぶす症状で見つかることもあります。白血病と悪性リンパ腫はまったく別個の病気ではありません。例えば悪性リンパ腫が進行したときに採血すると白血病のようになり、逆に白血病でリンパ節が腫れることもあります。

骨髄腫は、骨髄の形質細胞の悪性腫瘍で、いろいろな検査の異常や症状が出るのが特徴です。骨髄腫の細胞が増えると正常の骨髄がなくなり、赤・白・黄の血液がなくなります。そのため、検査の異常や貧血、発熱、出血の症状がでます。骨髄腫細胞は、異常なタンパク質を作るために、採血してMタンパク血症(異常なタンパク質が増えている状態)で見つかることも多いです。骨髄腫細胞は骨を溶かすので、腰痛な

どの骨の痛みや骨折で見つかることも多いです。他に骨髄腫細胞のために、腎臓が悪くなって腎不全になったり、骨が溶けて高カルシウム血症をおこします。

慢性的に血液が作られすぎて、血液が増えてしまう病気として、慢性骨髄増殖性疾患があります。赤血球が増えすぎる多血症は、肥満やヘビースモーカーでもなりますが、血液の病気からおきる多血症を真性多血症といいます。血小板が増えすぎてしまうのは、本態性血小板血症といいます。骨髄の中の線維成分がふえて、血液が増えたり減ったりするのは骨髄線維症です。これらをあわせて、慢性骨髄増殖性腫瘍と呼び、脾臓が腫れることも多いです。



貧血について

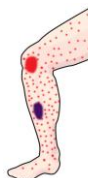


血液の病気が多いのは、鉄分の不足による鉄欠乏性貧血です。鉄の飲み薬で良くなりますが、胃腸の病気や婦人科の病気で出血して、鉄欠乏性貧血になっていることがあります。そのため、鉄欠乏性貧血の場合は、胃腸や婦人科の検査をして、出血する病気がないか検査して治療することが大切です。胃を手術で切除した方や年配の人では、ビタミンの吸収が悪くて貧血になることもあります。

再生不良性貧血は、骨髄の赤・白・黄の血液の元の細胞が障害されて、赤・白・黄の血液をつくれなくなる貧血です。貧血の他に、熱、出血の症状が出ます。

骨髄異形成症候群(MDS)は、骨髄の赤・白・黄の血液の元の細胞の形がおかしくなり、正常の血液が作れなくなる病気です。MDS から急性白血病になることもあります。

溶血性貧血では、骨髄で赤血球を作っても、できた赤血球が壊れてしまうために貧血になります。壊れた赤血球のために、黄疸の出るときもあります。



血小板減少症と出血

血小板が少なくなると、足にあざや小さい赤い点々が出来ます。鼻血や歯ぐきからの出血も起きます。血小板減少がひどくなると、急に胃や脳で出血して命取りになり得るので、診断と治療は急ぐ必要があります。血小板減少は、白血病や再生不良性貧血以外に、肝硬変、薬のアレルギー、ウイルス感染などでもおきます。原因を調べ

でもはっきりしない場合を、特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) といいます。ITP では、骨髄で血小板を作っていますが、作った血小板が壊されてしまい、血小板が増えません。

血小板があるのに、出血しやすくなる病気があります。血を止めるのは、血小板だけではなく、凝固因子という糊のような成分が必要です。血友病では糊の成分が足りないために、関節や筋肉内で出血しやすくなります。



白血球の異常と感染



白血球が 1000 以下など少なくなると、ばい菌が体に入ってきてしまいます。そのため、ばい菌のいる場所が痛くなって腫れて、熱が出て、咽頭炎、気管支肺炎、腸炎、腎盂炎などになります。白血球は、血液の病気自体でも減りますが、抗がん剤などの副作用でも減ってしまいます。病気の程度により、抗生剤や白血球を刺激して増やす薬で治します。



治療法について



血液の病気の治療法は、二つに分けられます。一番目は根本的な病気の治療で、鉄が足りない貧血の場合に飲む造血剤、白血病や悪性リンパ腫であれば化学療法 (抗がん剤)、抗体療法、放射線療法、骨髄移植などです。二番目は、体力を支える支持療法で、赤血球や血小板の輸血、抗生剤、白血球を刺激して増やす薬剤などです。

血液の腫瘍は、内科で扱うさまざまなガンのなかで、治癒がめざせるのが大きな特徴です。抗がん剤以外に、放射線、幹細胞移植 (骨髄、末梢血、臍帯血)、さらに、分子標的療法、モノクローナル抗体や新規抗がん剤などの治療が急速に進歩しており、今まで治すのが難しいと考えられていた病気も、治癒可能になりつつあります。

高額医療 制度

医療費の補助や指定難病

血液の病気で入院した場合、医療費が心配になります。高額療養費制度や指定難病医療費助成制度がありますので、お住まいの都道府県・市区町村の担当窓口、医師、相談室スタッフにご相談ください。

インターネットの、がん制度ブック <http://www.ganseido.com/> で、患者さんの情報に応じて利用できるがん制度がわかります。



より詳しく知りたい方のために

血液内科では、入院・外来の患者さんに、患者さんごとにあった資料をお渡しして、自分の病気について理解していただくようにしています。

インターネットの情報、患者さん向けの資料、患者会、ガイドラインについて、以下を参考にしてください。

- ・それぞれのがん(白血病、リンパ腫、骨髄腫など)の解説
国立がん研究センターのがん情報サービス
<http://ganjoho.jp/public/cancer/index.html>
動画で学ぶ、もっと知ってほしい、血液がんのこと
<http://www.cancernet.jp/hematologiccancer/>
- ・白血病、幹細胞移植については、
全国骨髄バンク推進連絡協議会の“改訂版 白血病と言われたら”
<http://www.marow.or.jp/>
動画で学ぶ、もっと知ってほしい、造血幹細胞移植のこと
<http://www.cancernet.jp/hematologiccancer/htc/>
- ・多発性骨髄腫について
日本骨髄腫患者の会
<http://www.myeloma.gr.jp/>
動画で学ぶ、もっと知ってほしい、多発性骨髄腫のこと
<http://www.cancernet.jp/hematologiccancer/myeloma/>

骨髄腫ナビ

<https://www.kotsuzuisyu-navi.jp/>

・悪性リンパ腫について

悪性リンパ腫全国患者 ネクサス

<http://group-nexus.jp/nexus/>

・血液疾患について

特定非営利活動法人、血液情報広場、つばさ

<http://tsubasa-npo.org/>

・慢性骨髄性白血病について

慢性骨髄性白血病患者・家族の会、いずみの会

<http://www.izumi-cml.jp/>

CML ステーション

<http://www.cmlstation.com/>

・骨髄異形成症候群について

骨髄異形成症候群(MDS)連絡会

<http://mdsrenraku.g3.xrea.com/>

・慢性骨髄増殖性疾患について

慢性骨髄増殖性腫瘍患者・家族会

<http://mpn-japan.org/>

・成人 T 細胞リンパ腫白血病について

HTLV-1 情報サービス

http://htlv1joho.org/general/general_atl.html

・再生不良性貧血について

再生つばさの会

<http://www.iplus.jp/~tsubasa/>

・血小板減少性紫斑病について

ITP 血小板減少性紫斑病患者会、なんくるないさー

<http://itp-n.jimdo.com/>

特発性血小板減少性紫斑病 ITP ナビ

<https://www.kyowa-kirin.co.jp/itp/>

・難病情報センター、一般利用者向け

<http://www.nanbyou.or.jp/>

・日本血液学会、患者会の情報

http://www.jshem.or.jp/modules/patient/index.php?content_id=2

・日本血液学会、造血器腫瘍診療ガイドライン

<http://www.jshem.or.jp/gui-hemali/index.html>

